



(2)

(一面より)

応し、全国各地域から反戦運動のうねりをつくり出し、巨万の街頭行動へ発展させて、議会内にも流動をつくり出して当面のうちに九十億ドル戦費供出と自衛隊の中東派兵を実力阻止していくか議行動がくりひろげられて、も開戦後直ちに米帝に対する抗議行動がくりひろげられて、

## 帝国主義の侵略戦争を

## 革命運動の高揚で打たれて

のためには「血を流す」のスローガンに端的な、国際石油独占と人民の敵対的関係を自觉しようとする反戦運動が巨万の単位で拡大している。そしてわが国でも開戦後直ちに米帝に対する抗議行動がくりひろげられて いる。

これに対してもアラブ・パレスチナ人民は、「…合衆国がその意志と文化を全世界に押しつけようとする限り、強い抵抗に立ち面し、多くの対決が生まれるだろう。合衆国の支配と闘おう」と

わが国の労働者階級・人民諸族と先進國との間で起つた東西冷戦が終つたといふのである。されば、南と北の熱い戦争は、いま開始されたのだ」（エルサレム・アルファジル紙一月二十一日）――とのべている。然り。この侵略戦争は新しい世界平和秩序の助産婦などではない。否／＼この侵略に對するアラブ・パレスチナ人民の反撃こそ、多極化・混迷の度を深める帝國主義の世界支配に対する反乱と民族解放の嵐の時代の幕明けを告げるるのである。

層は、米帝の侵略戦争と日本参戦がアラブ・パレスチナ人を支配し、資源を略奪するに他ならないことを明らかにして反戦闘争に立上つていかなければならぬ。それは、帝国主義の強盗戦争を許さず、アラブ・パレスチナ人民の民族解放闘争を支持するためであつて、われらの階級的政治性格を不問に小ブルジョアの厭戦気分、すなわち帝国主義の超過利潤のボレを前提にした「平和」要であるはならないのだ。

そうした傾向は、国益を乞うとする自國の侵略戦争に対抗できないばかりか、再びのアーヴィング太平洋への日本帝国主義の侵略戦争を容認し、推進する国論足り成長する。われら

はこのことに目的意識的でなければならない。なぜなら、日本は参戦と海外派兵が不可避に產み出すアジア人民の反日運動の高まりの中では、直ちにわが国が獨占ブルジョアジーは海外権を確保のための軍事挑発の野望上その実現のための「国論」形成に動くのであり、アジアの労働者・人民と共に日本の帝国主義的支配と対決し、その国家を打倒する見地抜きには、帝国主義の強盗戦争の協力者になつて、いくからである。

われわれは、あらゆる戦争に反対ではない。われわれは、帝国主義の侵略を許さない民族解放戦争を支持するし、自らが帝国主義の侵略戦争を内乱に転化して、いく内戦—革命戦争の組織分けの主張をなす。

者でなければならぬ。  
もちろん、われわれは今  
の蜂起を口にする「左翼」  
た急進民主主義者を批判し  
「敵の要塞に対する正規の  
軍」の建設をめざしている  
して、テロリズムの人民か  
遊離が革命的左翼と労働者  
民の共同した闘いの高揚を  
てゐる重大な負の要素であ  
考へてゐる。だが、そのこ  
対する反発を理由とする小  
シヨア的な動搖に対しても  
固として対決しなければな  
い。なぜならわれわれにと  
帝国主義とブルジョア独裁  
被抑圧人民と全世界のプロ  
アーティと共に打倒する対  
外の何者でもないからであ

アラブ・パレスチナ人民は「国境」を越えて前進する

さいごに、世界の激変を予兆するこれら中東情勢の歴史的背景にて、立憲君主制下で、パレスチナ人民に呼応して四次の解放戦争に

景と基本性格をみておこう。  
そもそも現在のアラブ地域の  
国境は、一度にわたる帝国主義  
合衆連衡がくり返されながら、  
突入し、敗北してきた。その過  
程では、さまざまな国と勢力の

エメンに加えて、イラク、ヨルダン、パレスチナ、イスラエルがイギリスの、そしてシリア、レバノンがフランスの植民地とのものが、イスラム教内多數派<sup>＝</sup>スンニー派と「異端」＝シーア派との対立を利用する米ソの力学関係に規定づけられて

なった。  
そして第二次大戦直後の四八年、イギリスは「バルフォア宣言」（十七年）にそつたパレスチナの例外とはならなかつた。  
きた。一度の石油恐慌を産み出した「OPECの反乱」や「イラク戦争」ですら、この枠組みの例外とはならなかつた。

チナ分割を国際連合に提示。アラブ諸国の反シオニズム共同闘争を圧殺して「イスラエル共和建国」に踏み切り、米ソの承認は、侵略者米帝と対決しきれども、すでに述べたように世界の政治地図は根底的な転換期に際会している。そしてこの転

人民の革命的決起を導き水路として、國際反革命体制の動搖と矛盾の激化をも働きながら革命的

激動へと転化するに違いない。全世界の反米反帝民族解放運動とその革命的発展に、そしてその統一行動の発展に限りない民族解放闘争に便乗し弱權拡張する」）に象徴的な対ソ封じ込め戦略と、これに対抗して反米

勇氣を与えるアラブ・パレスチナ人民の反米・反シオニズム闘争に革命的左翼として応え切り、國際プロレタリアートの一部隊としての革命的任務を総力をあげてこられた。



## イラク侵略戦争

### 下の日韓関係

アメリカ帝国主義によるイラク侵略戦争が始まつた。「冷戦終結」後、世界支配秩序の再編と巻き返しを狙う米帝の最後のあがきともいえるこの戦争に、アジアからの出撃拠点として、また具体的な「派兵」を通じて、日帝と韓国盧泰愚軍部政権は全面的に加担を行つてゐる。

日韓の加担＝協力がなければ、米帝はこの戦争を行うことができなかつたと言つても過言ではないだろ

### 「植民地支配清算」の中身

戦争の中で全面的に現れている米帝の「ポスト冷戦」下の「新秩序」戦略。これは「選択的抑止」「L·I·C・L·I·W」として、八〇年代後半から本格的に研究され、積み上げられてきたものである」と、これへの全面同意を基調にして、「応分の分担」という消極的な侧面だけでなく、「応分の積極的介入」に(とりわけアジアにおいて)踏み込もうとしているのが、

そのために両国は、完全に一致し、共同歩調を取らなければならぬ。従つて「完全な一致」を阻害する

様々な「懸案」については早期に、目的に従つて解決しなければならなかつた。そこで、様々な懸案の中で最大の障害となっていたものこそ、「植民地支配清算」[在日同胞の待遇]問題にほかならない。

この問題をどんなにギマント的にせよ「解決」

アキヒトの「謝罪」は、侵略の犠牲者となつた当事者にどう映つただろうか。

韓国人被爆者、サハリン残

た。

しかし、四五年たつた現在においての状況は、ギマント的な「清算」外交を、しかも新天皇アキヒトの名の下でのそれを許していると

いうものだ。

アキヒトの「謝罪」は、その実にほかならない。

この問題をどんなにギマント的にせよ「解決」

た。

しかし、四五年前たつた現

在においての状況は、ギマント的な「清算」外交を、しかも新天皇アキヒトの名の下でのそれを許していると

いうものだ。